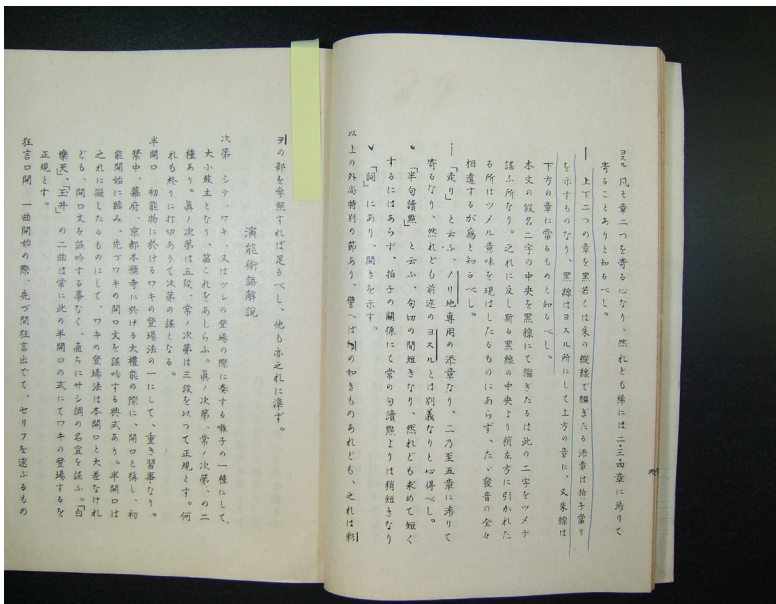
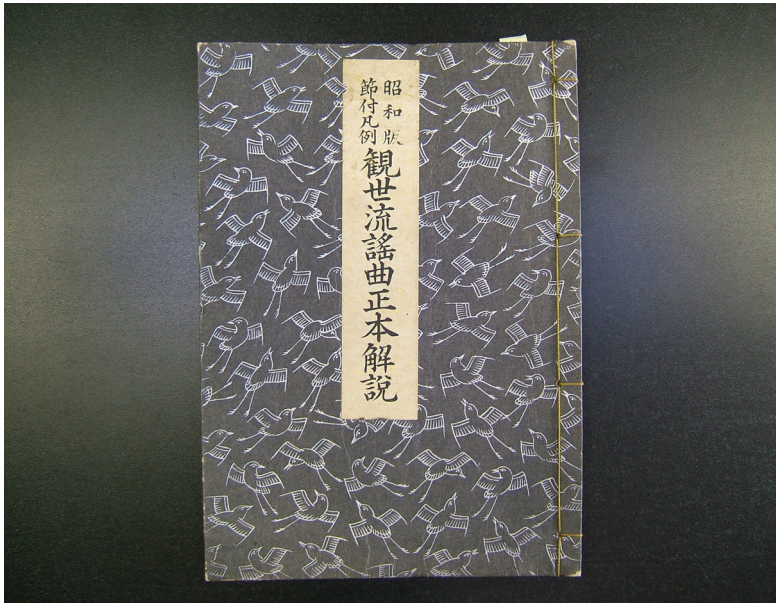


二十四世 観世左近 『昭和版観世流謡曲正本解説』

二十四世観世左近が、正統な節附を目指して改訂を重ねた、その最終形ともいえる謡本（いわゆる昭和版）の解説である。現在の「二ツ引」が「持チ合引キ」、「三ツ引」が「持チ」と呼ばれている等、違いがあり興味深い。節改訂の目玉の一つが、節どうしをつなぐ黒と赤の「一」の記号である（写真下の説明）。このうち黒の記号は、近古式の当たりを前提にした記号で、大成版と位置が異なる。黒の記号は、京観世岩井派の直し本から導入されたいしい（大西信久『初舞台七十年』昭和五四年、大西松諷社刊に指摘）。



標題 内題：―

標題紙：―

奥 附：昭和版観世流謡曲正本解説

その他：昭和版 節付凡例 観世流謡曲

正本解説（題簽）

著者 奥 附：二十四世 観世左近

その他の場所：―

出版 版 次：第一版

出版地：東京

出版社：檜書店

出版年：昭和10（1935）

その他の場所：―

形態 冊 数：一冊 頁 数：二六丁

寸 法：23×17（cm）

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考